

令和6年度 第2回長井市社会教育委員会議事録 【議事概要】

日 時：令和7年3月26日（水）10:00～11:40

場 所：市民防災研修室

出席者：■委 員：船山恒委員、上浦勤委員、平みわ委員、
村上滋郎委員、梅津ひろみ委員、久保道典委員、
竹田幸子委員、大津君彦委員、平吹登委員

■事務局（各関連部署担当者）

土屋正人(教育長)、新野弘明（地域づくり推進課長）、
鈴木千鶴子（観光文化交流課補佐）、今野透（学校教育課補
佐）山内陽子(地域づくり推進課生涯学習推進室長)、
鈴木政輝（健康スポーツ課スポーツ推進室係長）、
武田誠広(地域づくり推進課生涯学習推進室係長)、
石山春花(地域づくり推進課生涯学習推進室主事)

協 議

（1）令和6年度社会教育関連事業等の実績について
事務局より資料を基に説明

委 員：各外郭団体に対する支援等の生涯学習団体等に対する補助金について

長井小町の会、長井植物愛好会2団体に補助金を交付しているが、他の団体で補助
が欲しい時は申請すればもらえるのか。他にも生涯学習に関する団体もあるので、補
助金についてもっとPRをすれば活発に活動する団体も増えてくると思うがどのよう
になっているのか教えて欲しい。

事務局： 中央公民館時代の名残で2団体に交付している状況。交付要綱では、生涯学習に関
する事業を行っている団体に交付可能であるが、予算が現在2団体分しかないので、
申請いただいた場合は財政課との協議が必要になってくる。

委 員：放課後子ども教室等事業について

各地区配置のコーディネーターを中心に放課後子ども教室を実施とあるが、土曜ら
んどや放課後子ども教室の様子が学校だよりなどで見かけないが、載せないように学
校側と決めているのか。

事務局： 土曜らんどについては、学校側と載せないように決めてはいない。募集をする情報
紙（チャレンジ）で募集をするときに実績の写真などを載せて報告をしている。放課

後子ども教室は各学校のやり方で運営している。

放課後子ども教室は事務局をコミセンでもっている地区（例えば豊田地区）はコミセンの情報紙で活動報告をしている。それ以外の地区については広報の方法を検討していきたい。

（２）令和７年度社会教育関連事業について

事務局より資料を基に説明

委員： 資料１の実績と比べると資料２に記載されている項目が少ないが、変更点だけを記載したのか、それとも事業が変わるという事か。

事務局： 変更点を中心に記載しているので、記載が無い項目については、前年度と同じ。

委員： 中央地区の子ども会で一つの地区から子ども会を脱退したいという申し出があった。その地区は、子どもがいるのだが子ども会は解散したいので脱退したいとのことだった。これからそういうことが起こりえると思うし、会に入るとか脱退するとかの決まりはないと捉えている。

これからこういう申し出が増えていくという現状を皆さんと共有したいと思った。

座長： この後の意見交換のテーマにも関わってくる話題だと思う。高齢化だけではなく、少子化にもなっていて子ども会の存続が厳しいとか、親の価値観の変化という事もあると思う。そのあたりの話題も次の意見交換を踏まえてお聞きするという事でよろしいでしょうか。

（３）意見交換

テーマ：「高齢化を踏まえた今後の団体・組織の運営の在り方について」

事務局でテーマを決定した理由を説明後各委員の考えをお聞きした。

委員： 地域の中での学校を中心とした社会教育、お互いのつながりが地域の大事な課題だと思う。子供の成長に地域が関わっていくことが大事。学校と地域住民の交流を図っていく活動、年齢を超えたつながりが必要だと思う。

事務局： 豊田コミセンで来年度から１００歳体操クラブをつくる。会場を小学校の空き教室と考えているようだ。スクールコミュニティに繋がるのではないかと思うので、そういう細かい所から取り組んでいければいいと思う。

委員： コミセン活動が続けるかどうか等を検討する際に、運営委員のメンバーが変わらないという事もあって、相談先がわからない。相談先をもっと広げて教えて頂ける方

を探せばいいのではないかと思う。

中央地区では中高生ボランティアに力を入れているが、中高生に主体的に動いてもらうような働きかけをしていかないと、１回きりで終わってしまい、継続性が無いものになってしまう。

活動に参加する高齢者も固定化しているが、継続していかなければいけないという流れがとぎれとぎれになってきている。持っている知識などをマニュアル化する等整備してもらい、その様子を若者が見て学んでいくと継続意識が芽生え参加意欲につながるのではないかと思う。いろいろな世代を上手につなげられれば、活発になると思うし、行ってみたいという施設になると思う。

現在、ピアノに関わる仕事をしているが、音に触れるだけでなく、メカニクな所にも触れるような活用もしていただければと思っている。

事務局： 中央コミセンは、以前の社会教育の事業を継続している。事業の評価をして、見直しをしていかなければいけないと思う。事業の見直しと事務の効率化を行っていきいたいと考えている。

事務局： 子ども達はミッションを与えられると主体的に活動すると思っている。子ども会の行事は、事業が先に立っているので、やらされている感がある。そこを変えていく必要があると思う。子どもが活躍すると親や祖父母が手伝う。ルールを敷くのではなく、子どもの主体性にまかせると上手くいく。

ボランティアクラブも立ち上がっているので、そこと情報交換して上手くやっていていただきたい。

委員：①社会教育全体について

今までの活動内容の維持が根本的にむずかしいので、実際はどんな効果を維持するべきかを考えて、行政で上手くかじ取りして頂きたい。団体の維持というよりは、効果の維持という事を念頭におき活動を考えている。

子ども達の活躍する場面をつくっていく、活力を出していく機会が必要。

②子ども会解散について

各地区連絡協議会は連合組織ではないので、加入・脱退という考えは存在しない。中央地区では活動をしていない子ども会もある、育成会の存在を知らない子どもたちもいる。長井市子育連が、各地区子育連でできないことをカバーしている。

委員： 中道公民館を毎週利用させて頂いています。公民館はいろいろな場面で住民が集まり、社会教育の拠点になっている。また、居場所としても使用しています。

近年、公民館の役員に限らず地域の組織の役員を引き受ける人を探すのが難しくなっている。役員の成りては、若い人は仕事に従事しているので難しく、高齢者に偏りがちになり負担も大きくなっている。

役員の仕事を昔と同じやり方でやっているのでは、規則を現代に合うように作り直し

たり、役割分担が偏らないように配分したり、会議を夜間や土・日曜日に開催して効率的な運営に心がけることが必要であると思います。この様な方策を講じ、実践することによって、一定の効果をあげることができた。

委員：①子どもにミッションを与えることについて

北中学校運営協議会で子どもの主体性をどうやって高めるかについて協議してもらった。その時に、地域に参加する際に子どもに任せる部分があってもいいのではないかという意見や、企画の段階から子どもに入ってもらおうというのがあってもいいのではないかという意見もでた。

部活動の地域展開でもボランティアなど幅広いことが出来るということは、子ども自身の選択にもつながっていくと思う。子どもが地区に出ると保護者も関わって、つながりがでると思う

②地域組織の存続について

人が減っていく中で、組織と役員数は変わっていない。組織のスリム化と見直しが必要だと感じている。上の人だけで役職を担うにも限界があると思う。

委員：①私も外部団体の会長を引き受けている。引き受けると様々なことがあって負担も大きい。副会長と会議の出席を分けるとか役割分担を上手くすると良いと思う。

②子ども会の脱退も会議の出席や会長を引き受けなければいけないということがあって抜きたいと思うのかもしれない。

子ども達が貴重な体験をできるのが育成会だと思うので、保護者に負担がかからない体制や育成会の組織の在り方を検討することが必要なのではないかと思う。

③高校生は忙しいが主体的にやりたい生徒もいる。自分達で考えさせるといきいきと取り組む生徒もいる。主体的に取り組むことで人生の幅が広がり、貴重な体験になると思う。

委員： 公民館の会合に参加すると役回りでもめるということが定番になっている。若い世代が提案しても地区長が変わらないので実現しない。自分たちでテーマを作って企画させたら、大学1年生でもいい企画が沢山でた。自分達で責任をもって課題を解決していくというのが大事なのではないか。

委員： 活動していないが団体名を残している団体も複数あり、1団体が抜けると他団体も脱退してしまうということが続くのではないかというのが心配。小学校を拠点としてコミセンを合築するという話があったが、30年前くらいに視察で幼稚園と老人ホームを合築した施設を見学して大変良かったので、期待している。

4. その他

委員： ギャラリー停車場が廃止になったがそれに代わるものはなにかあるのか。

事務局： こういうことをしたいからこういう場所が欲しいという下からの積み上げが理想だと思う。市民のみなさんの発表する場は必要だと思うので、ご意見として頂戴して検討していきたいと思う。長井の芸術文化をどうするかという広い視点で深めていくべきだと思う。

事務局： ・久保の桜のクラウドファンディングについて
・文化財活用通期計画について

5. 閉会